

「1 円玉」の存在をどう考える？

北進ゼミナール

「円安ドル高^{えんやす だか}」という言葉を目にしたことがあるだろうか。「円」が日本の、「ドル」がアメリカの通貨単位であるということは知っていると思う。因^{ちな}みに「ドル」は「\$」と表記される。「円安ドル高」とは、「円」の価値が「ドル」のそれと比べて低くなってきていて、日本が外国から何かを輸入する時には不利になり、何かを輸出する時には有利になる状態なのである。

資料Ⅰを見ると、ここ数年で円の価値が大幅に下落してきていて、2026 年 8 月だと 1 ドルが 160 円弱(8 月 25 日現在)になっていることが分かる。ここで「アメリカには 1 ドル以下の品物はないのか」という疑問が浮かぶのではないだろうか。例えば、日本で特売の際に 1 個 120 円程度で買えたりするカップ麺はアメリカのスーパーではいったいいくらで売られているのだろうか。

資料Ⅱを見て欲しい。セールで「79¢」の値札が確認できる。注目して欲しいのはその単位である。「\$」ではなく「¢」となっている。「¢」は「セント」と読み、アメリカでは 1 ドル以下の補助通貨としての働きを担^{にな}っている。1 ドル=100 セントなので、現在の為替^{かわせ}レート^{注 1}で換^{かん}算^{さん}すると 79¢ は 125 円くらいの価値である。アメリカにも 1 ドル以下の品物があって、これを現金で買い求める際には、我々が財布の中の「1 円玉」をかき集めて支払いトレイに置いていくような感覚で 1¢ 硬貨を混ぜて支払うこともあり得るということなのだ。ただ、アメリカでは 2025 年 11 月に 1¢ 硬貨の製造を取りやめた。1¢ 硬貨 1 枚を製造するのに約 4¢ もかかるからというのがその理由である。もっとも、今でもまだ法定通貨として流通はしているが、徐々に姿を消していくだろう。そして、これをきっかけにアメリカではインフレとキャッシュレス化が加速しているとのことである。こんな記事を目にすると、つい「1 円玉」の今後にも思いが及んでしまう。非公表であるが「1 円玉」の製造コストも額面を超える 3 円程度という説があるからだ。「1 円玉」も 1¢ 硬貨と同じ運命^{たど}を辿ることになるかもしれない。

日本でもインフレとキャッシュレス化が進行中だ。資料Ⅲは、商品の購入やサービスの対価の支払いが現金以外で行われた比率や決済額を示したものである。政府はこのキャッシュレス決済比率を将来的に 80%まで高めたいとしているが、2026 年 7 月にそれに冷や水を浴^ひび^{みず}せる^{注 2}できごとが起きた。とあるクレジット決済代行業者の破綻^{はたん}である。その結果、その代行業者と契約していた様々な業種のお店が多大な損失^{こうむ}を被った。そしてそれ以降、一部のお店では現金払いしか対応できなくなっていて今(8 月末時点)に至っている。キャッシュレス決済は便利な一方で予期せぬ事態には弱い傾向がある。そんな時に頼りになるのが現金である。そして、「1 円玉」も現金としての責任をしっかりと果たしている。

1¢ 硬貨の製造は既に止まっているが、「1 円玉」についても SNS で廃止論が提起されたりしている。財布の中で溜まってしまうと厄介者扱いされがちな「1 円玉」であるが、「一円を笑う者は一円に泣く」という諺^{ことわざ}にもある通り、無駄^{やっかいもの}にしてはならない小さなものの象徴でもある。諺に示されるその精神はぜひ大切にしたいものだと思う。「1 円玉」を目にする機会が多いうちに改めてその存在について思いを巡らせてみて欲しい。

以上

注 1. 為替レート：通貨を交換する割合のこと。ここではドルと円の交換を指す。

注 2. 冷や水を浴びせる：人や物の元気や勢いを失わせること

□資料Ⅰ 2017 年以降の各年 8 月 25 日の為替レート(米ドル対円相場)と推移



出典：七十七銀行米ドル対円相場一覧表掲載の数値を参考に小数点以下を四捨五入して新規にグラフ化した。

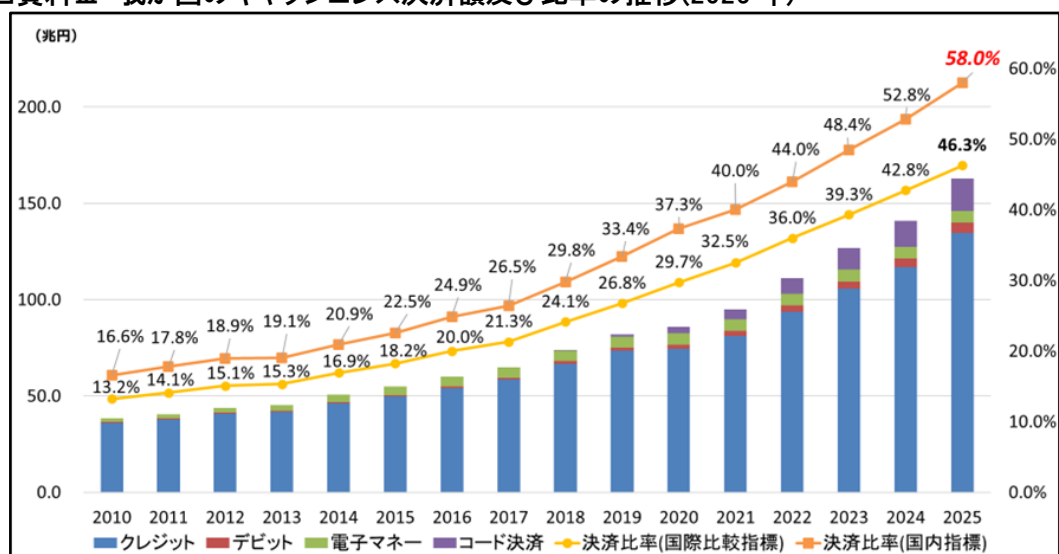
補足：1 ドルの品物を 2017 年には 110 円で買えたのに、2026 年には 159 円で買うことになるかと理解すればいい。

□資料Ⅱ アメリカの地方スーパー商品棚の風景



出典：「ラスベガス大全」掲載写真の一部を拡大して引用

□資料Ⅲ 我が国のキャッシュレス決済額及び比率の推移(2025 年)



出典：経済産業省 HP ニュースリリースアーカイブ掲載グラフを引用

「1 円玉」の存在をどう考える？

アメリカでも日本でもインフレとキャッシュレス化が加速していますが、不測の事態があった場合の現金の強みは日本ではまだ続きそうでもあります。その現金の中で最も少額な「1 円玉」は、気がつくと財布の中に溜まってしまって困ることもあります。一方で、そんな小さなものも大切にすべきだと考える人も少なくありません。目にする機会が多い内にぜひその存在について考えてみましょう。

課題文や資料Ⅰ・資料Ⅱ・資料Ⅲに目を通した上で、(2)で示した条件を必ず守って常体語(「～だ」「～である」調)で作文を書いてください。なお、先に下書きをしてから指定原稿用紙に清書するようにして合計 2 時間以内で取り組んでください。また、(3)でテンプレートが示されていますが、それにこだわる必要はありません。(1)と(2)の下線部の条件を守れば自由に書いて構いません。

(1)指定作文用紙に横書き 800 字以内で書くこと。タイトルは不要です。 注)今回も横書きです。

(2)以下の条件に従って目安時間(合計 2 時間以内)を意識して進めてください。なお、下線部については必ず触れるようにしてください。

- ① 最初に、課題文や資料を読んで抱いた「1 円玉」についての印象や感想を書いてください。
- ② 10 年前と比べて「円」の価値が下がってきています。資料Ⅰから 10 年前と現在を比較して「円」の下落率をおよその百分率で示してください。その上で、自分の思うことを書いてください。
- ③ 日本でも第二次世界大戦の頃までは「円」の下に「銭」という補助通貨が存在していましたが、現在は通貨としては利用されていません。アメリカの「¢」について資料Ⅱを見て感じたことを自由に書いてください。
- ④ 日本でもキャッシュレス化が進行しています。資料Ⅲから 10 年前と現在を比較してキャッシュレス決済率がどのように変化したのかを示してください(表現方法は自由です。テンプレートを参考にしても構いません)。その上で、そのことについての印象や意見を自由に書いてください。
- ⑤ SNS では「1 円玉」廃止論が提起されていますが、無駄にしているのではない小さなものの象徴として諺の中で用いられたりもしています。自分自身が大切にしている小さなものやこだわりにも触れながら、①で書いた内容と矛盾しないように考えたことをまとめてください。

(3)書き方がよく分からないという生徒は以下のテンプレートを参考にして書いてください。

- ① 私にとっての「1 円玉」は～である。日常生活の中で～と思うことが多い。
- ② さて、「円」についてだが、資料Ⅰによると 10 年前と比べて価値が約〇%(一の位を四捨五入)下落していることが分かる。「円安ドル高」は私たちの生活にも～という影響を与えているように感じる。
- ③ 課題文から、アメリカ人にとっての 1¢ 硬貨の感覚は我々にとっての「1 円玉」のそれに近いことが読み取れるが、～であると思った。また、資料Ⅱの画像を見て～のような印象を抱いた。
- ④ ところで、日本でもアメリカと同様に現金離れが進んでいる。資料Ⅲによると 10 年前と比較してキャッシュレス決済率は〇%から〇%と約〇倍に増えてきていることが分かる。これを見て～と感じた。私自身はキャッシュレス化について～と考えている。なぜなら～だからだ。
- ⑤ 私は「1 円玉」は今後～なっていくと考える。その一方で「一円を笑う者は一円に泣く」という諺については～と思う。私にとって、こだわりたい小さなものとは～である。～のように考えて大切にしている。「1 円玉」は～という存在だが(①と矛盾しないように)、～と考えている。

以上